



上／『叡山電鉄御案内』
(昭和3 (1928) 年小型改訂版)
小型初版は大正15年に制作された。

左上／『都おど里(都踊り)写真帖』
(昭和2 (1927) 年芸芸倶楽部社刊)
今でいうプログラムの表紙に叡山ケーブルカー案内図が掲載されている。

大正・昭和の鳥瞰図絵巻
連載—第8回
吉田初三郎の世界

『叡山ケーブルカー絵葉書』
(昭和3年)

叡山電鉄御案内

叡山ケーブルカー・架空索道

文・藤本一美
text by Kazumi FUJIMOTO

もともと京都電燈が経営した叡山電気鉄道(叡山電鉄)は、バックグラウンドとしての比叡山観光を意識して大正十四年に開業したケーブルカー(西塔橋く四明ヶ嶽間)と平坦線(出町柳く八瀬間)で運営した路線である。

昭和十七年、その鉄道・軌道を京福電気鉄道に譲渡。その後、昭和六十年に京福電鉄から分離し、新たに叡山電鉄設立。翌年開業したが、平成十四年からは京阪電気鉄道の100%資本参加で完全子会社となり、「叡電」の愛称で親しまれている。京阪電鉄で、大阪から三条に出て出町柳へ。出町柳から叡電に乗り継ぎ、八瀬まで導く(分線の鞍馬線も表現)。八瀬遊園地で遊んだ後は、背後の京都の二大シンボル「西の愛宕山」と並び称される「東の比叡山」(京都人は単に叡山と呼ぶ)に注目させてしまう立体的図絵としての、昭和

藤本一美

首都大学東京(都立大学)非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』(私家版2006年)、最新刊に『展望の山50選 関東編』(東京新聞出版局)がある。



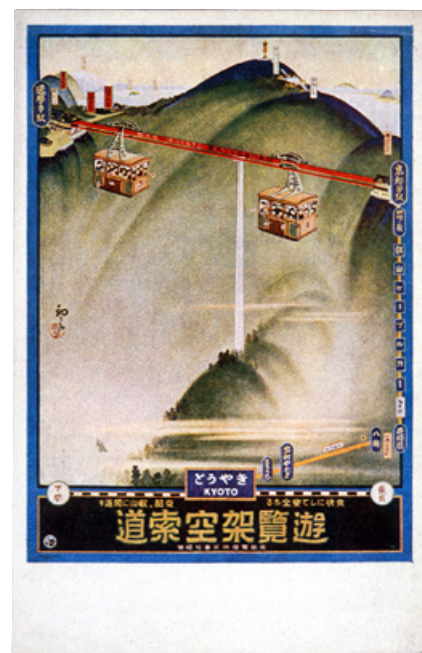
叡山電鉄株式会社
Eizan Electric Railway Co., Ltd.

設立：昭和60年7月10日
営業開始：昭和61年4月1日
本社：京都市左京区田中上柳25番地の3

叡山電鉄株式会社 路線図

市民に愛され、京都観光で賑わう歴史ある路線。

京福電気鉄道から分離し、昭和61年4月に開業。賀茂川と高野川が合流する出町柳を起点に、比叡山の麓・八瀬へと向かう「叡山本線」と、京の奥座敷と呼ばれる貴船・鞍馬へ向かう「鞍馬線」の2線を運営している。市民から「叡電」の愛称で呼び親しまれ、生活路線として利用されるとともに、一年を通して古都・京都を訪れる観光客で賑わっている。特に京都北山の大自然を電車から満喫できるように造られたパノラミック電車、900系「きらら」が観光客の人気を集めている。



『遊覧架空索道絵葉書』
(昭和3年)

初期の筆致がなされていて楽しい。まさに比叡山は朝な夕なに仰ぎ見られる京都市民の山で、古くは平安遷都以来伝教大師開山の延暦寺がある霊山としても著名である。

私自身、修学旅行の引率や鳥取への帰省の途次などで、四度ほど比叡山に登っているが、平成六年三月初旬の折には、初三郎の図絵に導かれて、京福に残った八瀬遊園からケーブルカーで単独接近し、比叡山頂西の四明ヶ嶽(岳)の回転展望台に上って見たことがある。

加賀の白山と木曽御岳山は頭角を現さなかったが、琵琶湖の沖ノ島の上にかすむ伊吹山、白雪に輝く比叡山系と北山、近江富士(三上山)の後方には鈴鹿山脈、眼下には京都・大阪市街方面の三六〇度の眺望(藤本・田代共編著『続々展望の山旅』実業之日本社刊参照)を楽しんだことを思い出す。

そういえば、初三郎は「叡山頂上一目八方鳥瞰図」(観光社)や「比叡山名所遊覧交通鳥瞰図絵」(京都電燈叡山電鉄部)のともに大正十五年描画の作品を残しているし、「鞍馬電鉄沿線名所図絵(鞍馬電鉄沿線名所交通鳥瞰図)」(鞍馬電鉄・昭和三年)の作品もある。